



もり

# 北の森林 国有林

写真：利尻山とトドマツ林  
(撮影場所 利尻富士町)

## 今月のトピック

- ・北海道広葉樹木材の活用



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



# 北海道産広葉樹木材の活用

## 資源活用第二課

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は、世界的な木材需給の混乱とコンテナ不足を引き起こし、日本においても木材不足と価格高騰、いわゆる「ウッドショック」が起きました。さらに、2022年にはウクライナ情勢によりロシアからの輸入が止まり、木材業界には大きな影響が生じています。このように、外国材の供給が減少又は不安定化していることから、国産材時代到来とも言われ、特に北海道産木材が非常に注目されています。

北海道は、広葉樹資源全国約14億m<sup>3</sup>の約4分の1に当たる3億5千万m<sup>3</sup>、生産量（2013年）240万m<sup>3</sup>、北海道70万m<sup>3</sup>約30%と広葉樹木材の生産・利用において、国内で中心的な地域なので、広葉樹の木材利用についてご紹介します。



北海道内の針葉樹の人工林には多くの広葉樹が生育する

北海道には、大雪山系を中心にして天塩山地、北見山地、夕張山地、日高山脈、十勝地域、根釧地域など多くの山地と豊かな森林があり、その森林は、道内でも冷涼な地域をのぞき、冬に落葉する広葉樹を主体とした冷温帯夏緑広葉樹林に属しています。

世界的にみても同緯度にはアメリカ五大湖、南ドイツから北フランス、ロシア沿海州、中国東北三省と広葉樹の産地がありますが、その中で北海道の広葉樹は高い品質を誇っています。

広葉樹の評価は木目と色の美しさで決まると言われていますが、原木の保管も重要であり、北海道では雪を利用して伐採を行うことにより原木の割れを防ぎ、雪上で搬送を行い冷蔵状態に保つことで良質な原木を市場に供給しています。

広葉樹はミズナラをはじめカンバ類、センノキ（ハリギリ）、ヤチダモなど様々な種類があり、色合いや木目を活かし家具やフローリング等の内装材として利用され、地域の産業を支えています。しかし、以前から慢性的な原料不足と言われていましたが、今回のウッドショックによる外国産広葉樹の減少、輸入コストの増大などから、北海道産広葉樹、特に国有林への期待が高まっています。



銘木市へ出品された国有林材

## 【ミズナラ】

ミズナラの木材は、はっきりした木目と高級感のある色合い、家具や建物の内装材などによく使われます。

また、落ち着いた色と美しい木目を持ち、海外で高級な材料として好まれているほか、ウイスキーやワインの樽にも使われています。

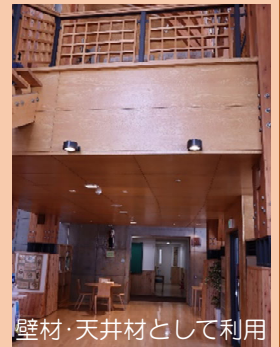


ミズナラのテーブル

## 道産広葉樹の利用例 ～北海道森林管理局庁舎～

### 【センノキ】(ハリギリ)

センノキは木肌の白さ、木目の美しさ、材面の光沢などからツキ板（内装用合板）羽目板（無垢材）として特に好まれています。



壁材・天井材として利用

良い材質の木材は北海道から産出されていて、現在でも国内産のセンノキの9割は北海道産と言われています。

### 【カンバ】

『カンバ』とい名前は、カバノキ科カバノキ属の樹木の総称で、シラカンバ、ウダイカンバ、ダケカンバのことを指します。



傷や衝撃に強いことや経年劣化がしにくく、反りや狂いが起きにくい木材で水にも強いことから家具に加工しても長く使うことが可能です。このような特性を活かし、家具以外にも内装パネル材やフローリング、ドアなどの建築材、玩具、食器、雑貨などその用途は多岐にわたります。

また、木製バットに使用される木材。従来アオダモが主体で8割以上を輸入材が占めている中、北海道に多く自生するダケカンバを素材として利用する研究も進められています。

### 【ヤチダモ】

ヤチダモは、日本では北海道本州の長野以北に分布しています。強靱で衝撃に強いこと



階段の手すりにも利用

から家具や床材、内装に使われるほか、スポーツ用具などに使われていますが、現在では国内生産と輸入材の減少で流通量が減少しています。

## 北海道森林管理局の取組 ～広葉樹資源の有効利用に向けて～

北海道森林管理局では、貴重な広葉樹資源を有効利用するため、人工林を帯状に伐採する際に伐採幅に当たり、伐採の対象となる広葉樹について、丸太を用途別に選別し、付加価値の高い製品向けに供給する取り組みを実施しています。また、伐採された広葉樹材のうち良質なものについては、旭川市で開催される「銘木市」へ出品するなど、より付加価値の高い用途向けの丸太の供給ができるよう、引き続き取り組んでいきます。



※ この記事の構成は、北海道森林管理局にインターンシップに来た学生に考えていただきました。ありがとうございました。

# 【上川南部森林管理署】 木造建築・我が署紹介！



新築当時の現庁舎

上川南部森林管理署は、南富良野町に所在しています。その管轄区域は、北海道のほぼ中央に位置しており、水系は日本海に通じる空知川と太平洋に流れる鶴川に分かれ、それぞれの上流域にあたります。地勢的には東部は大雪山系から日

高山脈、西部は石狩山地・夕張山地に挟まれ、北側は富良野盆地からなっています。管轄する国有林は、約11・5千haで富良野市、上富良野町、南富良野町、占冠村に所在します。

管内にある十勝岳・芦別岳・夕張岳などの優れた自然に恵まれている地域は、大雪山国立公園や富良野芦別道立自然公園などに指定されるなど、秀麗な山岳と森閑とした湖沼を特徴とする北国らしい景観を持つ地域です。

## 【管理署の変遷】

戦前、当署管内の国有林は、御料林と北海道庁所管の国有林に分かれていましたが、昭和22年の林政統一時に再編され幾寅、金山、富良野の3つの営林署として発足しました。

旧庁舎は、昭和23年に建

築されて以来増改築をしながら使用してきましたが、老朽化が進んだこと、平成11年の組織の抜本的改革により三営林署が上川南部森林管理署として統合されたことから、地元の新たな顔となるべく、現在の庁舎が建築されました。

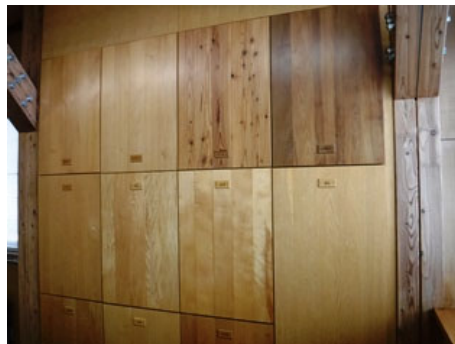
## 【現庁舎の概要】

現在の庁舎は、平成14年3月に竣工し、20年が経過、木造2階建てで延床面積は592㎡。事務室のスパンを確保し、なおかつ、フラットルーフとするため、木造の在来工法によらず、カラマツ材による大断面構造用集成材と軽量鉄骨等を適宜使用したラーメン構造となっています。

一階には森林事務所・会議室・トイレ等を配置。これは地域の森林ボランティア活動等で休日でも利用してもらえるように会議室・トイレ・玄関ロビーはバリアフリー化されています。また、会議室の暖房はペレットストーブで通常の暖房にはない温もりと、薪ストーブにはない利便性を兼ね備えた暖房装備として木材

利用のPRに一役買っています。

二階には署長室及び執務室を配置しています。執務室はスペースを確保しつつレイアウトの変更を容易とするため無柱のフラットスペースとなっています。



代表樹種を使った収納棚

新築にあたっては、上川南部流域の森林管理の中心基地として、地域住民から親しまれるような木の良さをアピールできる建物をコンセプトとして、トドマツ・カラマツ・エゾマツ等の地域の特色ある木材を使用し、建物の内部、外部とも可能な限り木材を使用、他の建材と調和がとれるよう設計されています。

また、寒冷地対策として、

高密度断熱材と木製サッシ窓が使用され、寒さと結露対策を行い快適な室内温度が保たれています。

## 【歴史を伝える年輪板】

現在、玄関ロビーに飾られている「年輪板」は、旧幾寅営林署時代に伐採されたエゾマツで伐採時で樹齢265年、現在ではこのような大木を伐採することは無くなりましたが、往時の活況を伝える貴重な林業遺産の一つとなっています。



庁舎内玄関の「年輪板」

最後に、これからも地元で愛され地域の林業の活性化に貢献できる森林管理署として、理解を得られるよう取り組んでいきます。

# こんにちは 森林官です!

留萌南部森林管理署  
三溪森林事務所  
森林官 加藤 秀一



三溪森林事務所 森林官



## 所在地の紹介

苫前町は北海道の北西部、留萌地方沿岸線の中央部に位置し、人口約2,900人。人道内屈指の「強風地帯」で、風車の町（風力発電）として有名で全国に先駆けて資源エネルギーを有効活用し、脱炭素社会の構築と地域活性化を図る取り組みを行っている町です。



(苫前町の風力発電)

明治初期には「やん衆」といわれるニシン漁師がきてニシン番屋に宿泊しながら漁を行っていました。その中から拠点を苫前に移す人々が定住し、今の苫前町に至っています。

## 森林事務所の概要

三溪（さんけい）森林事

務所は、古丹別・奥古丹森林事務所との合同森林事務所として苫前町古丹別に所在しています。合同森林事務所では、私と首席森林官1名、非常勤職員2名の計4名で各種業務を行っています。苫前町の約9割は森林で、そのうち約8割が国有林となっています。三溪森林事務所では約12,200haを管轄しており、昭和初期には森林鉄道（ポンポン蒸気機関車）が走り、たくさんの丸太が山から運搬されたことが盛んに行われていたと聞いています。

## 森林官の業務

森林官は管轄している国有林の現状を把握し、多岐にわたる業務を行っています。苗木の植栽や伐採作業などの請負事業の監督業務、林道の維持修繕、境界等の確認、入林者への注意喚起などを行い、冬期間はスキーやスノーモビルを使用し地況調査などを行っています。

今年度は、3年ぶりに当署も共催している「苫前町植樹祭」が開催されエゾヤマザクラを植樹しました。

また、部内の「サンケベツ遊々の森」において、苫前小学校1・2年生17名と古丹別小学校1年生8名を対象に森林教室を開催し、森林の散策や落葉を使った万華鏡づくりを行っています。



(左上が著者)

## 三毛別の熊（ヒグマ）事件

大正4年12月、約340kgの熊が数回にわたり民家を襲い臨月の女性や幼児を含めた10人が殺傷されるという国内獣害史上最大の被害があった地域として知られています。

広く知られるようになったのは、事件発生から約50年後に当時の古丹別営林署に勤務していた木村盛武氏によって詳細な調査が行

われ発表されたことがきっかけとなってあります。その後は、事件を題材とした小説や映画など数多くの作品が創作されており、昨年もテレビ会社が番組制作のため現地を訪れています。



(三毛別熊事件復元地)

## おわりに

三溪森林事務所には昨年4月に着任し、事務所内部の状況把握を進めながら、業務を行ってきました。

今後、国土の保全や水源かん養を通じて安全で快適な国民生活を確保し、貴重な自然環境の保全や自然とのふれあいの場を提供し、地域に貢献できるよう努力していきます。

# もり 森 林 の 話

第24話  
空知森林管理署  
井口 真緒

若手職員のコーナーです。

入庁し、空知森林管理署に来てから早くも2年が経とうとしています。森林管理署の業務内容はとても幅広く、OJTなどで学ぶ自分の担当以外の業務は、全く別の仕事に感じます。

1年目は「森林ふれあい」、今年からは「土木」を担当しています。今回は、それぞれの業務で感じたことや学んだことについて触れたいと思います。

## 【森林ふれあい担当】

空知森林管理署の森林ふれあい担当は、森林教室の運営などのほか、国有林の入林の手続きや狩猟関係の業務をしています。一般の方と接する機会が多く、緊張していても丁寧で分かりやすい対応ができるような心がけています。そんな、ふれあい担当の業務のなかで印象的だったのは、狩猟関係の業務です。主に、可猟区の設定や市町村・猟友会と連携してエゾシカを捕獲する捕獲連携事業の調整をしています。

各方面と調整や打ち合わせ



令和3年度合同狩猟  
パトロールの様子

せをするなかで、「趣味としての狩猟者」とエゾシカの頭数調整をしたい「市町村」、安全確保のため慎重にならざるを得ない「現場責任者」といった狩猟に対する思いの違いが見えてきました。

私自身、大学で野生動物について研究してきたので頭数管理の重要性は分かりますが、現場責任者が求める安全確保との両立はなかなか難しい課題で、猟友会や市町村などの関係機関との信頼関係の構築が不可欠だと思いました。また、「現場責任者」の視点は、学生の時には見えなかった視点だったので、新鮮さとともに、関係者全員が納得する中間点を探す難し

さを感じました。どのような業務でも様々な角度の視点が必要だと思うので、広い視野を忘れず業務にあたりたいです。

## 【土木担当】

土木担当は林道の管理、測量や工事の発注・監督等を行っています。林道や森林土木の知識が無く、道は斜面を切り拓いて平らにしたもの程度の認識しかなかった私にとって、道路にも構造があり、排水施設や擁壁など様々な工法が駆使されているという根本的なことも、驚きでした。

林道の開設や維持・修繕には時間とお金がかかり、特に開設や改良は、測量・設計をして着工するため、2年以上かかります。そのため、経営担当や治山担当など他担当との連携が大切で、事前に保安林協議を行い、伐採等の事業のタイミングに合わせて工事を実施します。担当ごとに全く別の仕事をしているようでも、どこかで関連していると実感しました。自分の

仕事の前後のつながりはまだ見えないところもありますが、他の業務との関連を意識しながら業務を行っていきたいと思います。



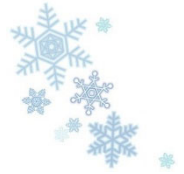
新設工事の  
排水施設

## 【最後に】

一緒に現場に出ている、人によって森林の見方は違います。胸高直径や樹高など木材資源としての状況や、木に巻きつく蔓や木の混み具合など保育作業からの視点、木の根元の曲がり具合から斜面の滑りやすさを見るなど様々です。

樹種の判別にも一苦労していますが、着実に業務経験を積み、幅広い知識を身につけていきたいです。

# 各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

## 昭和木材 株式会社 旭川工場と 旭川銘木市でOJT



### 【日高北部森林管理署】

令和5年1月26日(木)～27日(金)に、昭和木材株式会社旭川工場と旭川林業会館で開催された銘木市で日高北部森林管理署職員9名のOJT(職場内訓練)を行いました。昭和木材(株)旭川工場では国産材(2～3割)、外国産材(7～8割)が取り扱われており、建築用材や内装用材、家具等がつくられています。

これらの製品を原木(丸太)から加工するのですが、原木が手に入ったらすぐに使えるわけではなく、2年ほどかけて乾燥させる必要があります。

そのため、現在は輸入されていないロシア産材も原木のまま残っていました。

外で自然乾燥をしても雨や雪で濡れてしまうのではないかと思います。問題ありません。雨雪で濡れて乾く、というのも自然乾燥の重要な工程のようです。今回の見学では通常業務の中で見る現場とは一味違い、伐られた後の木がどのように売られ、どのように製品になっていくのかを見られるよい機会となりました。

## 木育ひろば inチ・カ・ホ



### 【森林整備部 技術普及課】

令和5年1月21日(土)～22日(日)に、札幌駅前通地下歩行空間北3条交差点広場にて、北海道、公益社団法人北海道森と緑の会、北海道森林管理局が主催する、「木育ひろば in チ・カ・ホ」が開催され、2日間で819人ももの来場者があり大盛況でした。

北海道森林管理局は、国有林の紹介パネルを展示するとともにTVモニターを利用した国有林や森林・林業に関する映像による紹介を行ったほか、木の工作プログラムを実施するブースを出展し、1日に約100名がブースを訪れました。

そのほか木育マイスターによる木育ワークショップ、様々な出展団体による各種木工体験や大画面で森林や林業に関する映像を流すなど、森林づくりや木づかい、木育の取組にふれる絶好の機会を多くの市民・道民の皆様に提供することができました。

## 「狩猟者のための 森林講座」 を開催しました



### 【十勝西部森林管理署】

令和5年1月31日(火)18時30分から、帯広市十勝プラザにおいて、帯広市有害鳥獣駆除説明会の場をお借りし北海道猟友会帯広支部の会員100名を対象として、「狩猟者のための森林講座」を開催しました。

当日は、月安(つきやす)帯広猟友会支部長・帯広駆除会会長の挨拶の後、保全課 藤本(ふじもと)野生鳥獣管理指導官から「森林管理者からのお願い～狩猟の安全確保」についての講話を行いました。

また、狩猟許可時に配布した銃猟立入禁止区域図ダウンロードの方法等について説明し銃猟事故を再度起こさないよう注意喚起をしました。十勝西部森林管理署では清水、帯広、大樹、広尾と管内全ての猟友会支部で有害鳥獣駆除を行っており安全確保に向けた各種取り組みを今後も連携しながら継続していくこととしています。

## 西紋別支署で スノーモビル・スキー 訓練を実施



### 【西紋別支署】

令和5年1月13日(金)西紋別支署でスノーモビル・スキー訓練を実施しました。

午前中は座学で安全教育を行いました。また、運搬に使用する車両とトレーラーの接続やスノーモビルの積み卸しの実技訓練を行いました。

午後からは実際に現地での実技訓練です。スノーモビルの基礎的なことや注意点については、当署でスノーモビルの点検・整備を行っている業者さんを講師に招き説明を受けました。スノーモビル訓練後、引き続きスキー訓練を行いました。森林管理署が使用する歩くスキーは「ソンメルスキー」というもので、グレンデスキーとは違ってかかたがスキー板に固定されていないため歩きやすくなっていますが、グレンデスキー経験者でも、ソンメルスキーは苦戦する職員も多いため、グレンデスキーと操作法等が全く違うものとして慣れと練習が必要です。訓練は怪我等アクシデントも無く、無事終わりました。

## えりも岬緑化事業70周年を 記念してパネル展示

えりも岬の本格的な緑化事業が始まってから70年、これまでの歴史を振り返り、えりも岬の移り変わりや事業の様子などのパネルを展示します。

## 砂漠と化したえりも岬

明治以降、開拓の過度な伐採や虫害により「えりも砂漠」と呼ばれるほど荒廃したえりも。

土地特有の強風が赤土を舞い上げ、海を濁らせると、魚が減りきれなくなりました。

## 風と赤土との戦い

昭和28年から始まった緑化事業は、風から緑化植物を守るための試行錯誤の連続でした。

## 蘇る大地と海

表土が安定すると、ようやく植林が本格化し、クロマツなどの苗木が植えられました。

緑が戻ることで、海の濁りが改善され、サケ、マスが返ってきました。また、昆布の品質も向上しました。

基幹産業の水産業が復活すると、人も戻り、えりもに活気が戻りました。

## 次の世代につなぐ

林野庁は、地元の方々とともに、えりも岬の緑化事業を進めてきました。

これからも、まだ若いえりもの森を地元の方々とともに育てていきます。

そして、たくさんの人々がこの事業に捧げた情熱と成功に至るまでの苦勞を、また、森の大切さを、次世代へ伝える取組も続けていきます。

### 1 展示場所

北海道森林管理局内  
ウッドディーホール1階

### 2 展示期間

令和5年2月17日（金曜日）  
～3月2日（木曜日）

### 3 時間

終日10時～15時  
（土日祝除く）



詳しくはHPで

## 冬芽観察 ミニブック

北海道森林管理局では、冬芽の観察用に簡易な「冬芽観察 mini book」を作成しました。

イラストの作成及び編集は北海道森林管理局の職員である平田美紗子が担当しました。

## 冬芽の観察心得



冬芽とは、「ふゆめ」または「とうが」と読みます。

樹木が、冬を越すために葉や花の蕾が厚い衣や毛皮に包まれ小さく折りたたまれて入っています。

この「冬芽観察 mini book」には、冬芽の観察心得として、あれば良いと思われるルーペやカッターなどの「道具」、「用語解説」、「冬芽の形」や「芽の付き方」、「葉痕」の違いについても、説明が掲載されているので、初心者にもわかりやすい解説書となっています。



詳しくはHPで

もり  
広報 「北の森林 国有林」2月号  
発行 林野庁北海道森林管理局  
編集 総務企画部 企画課  
〒064-8537 札幌市中央区宮の森  
3条7丁目70

IP電話 050-3160-6300  
電話 011-622-5213

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

## 今月の表紙

### 今月の木 「ミスナラ」

今月はミスナラの冬芽のイラストを表紙の月数字の横に掲載しました。

五角錐形で先端は尖っています。

